

Title	研究大会ラウンドテーブル：「社会科学領域における研究データの公開と共有：図書館情報学での実践に向けて」
Sub Title	
Author	前田, 幸男(Maeda, Yukio) 石井, 加代子(Ishii, Kayoko) 酒井, 由紀子(Sakai, Yukiko) 松林, 麻実子(Matsubayashi, Mamiko)
Publisher	三田図書館・情報学会
Publication year	2019
Jtitle	Library and information science No.82 (2019.) ,p.57- 57
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00003152-00000082-0057

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究大会ラウンドテーブル

「社会科学領域における研究データの公開と共有： 図書館情報学での実践に向けて」

話題提供者：前田 幸男（東京大学大学院情報学環）

石井加代子（慶應義塾大学経済学部，経済学部附属経済研究所パネルデータ
設計・解析センター）

酒井由紀子（東京財団政策研究所・政策データラボ）

モデレータ：松林麻実子（筑波大学図書館情報メディア系）

今年度のテーマは「社会科学領域における研究データの公開と共有：図書館情報学での実践に向けて」であった。3人の話題提供者による社会科学領域における研究データ公開・共有の事例紹介に続き、後半ではフロアを交えた自由な意見交換を行った。

初めにモデレータから、昨今注目されている研究データの公開と共有という課題に図書館情報学研究者がいかに貢献できるかということについて、社会科学領域に焦点を当てて考えてみたいという趣旨が説明された。次に酒井由紀子氏より、社会科学領域における研究データの公開と共有に関して、欧米の学術機関・図書館がどのような取り組みを行っているかに関する代表的な事例が紹介された。酒井氏からは、図書館情報学研究者として研究活動や成果報告において研究データをいかに取り扱い、公開したかということに関する自身の体験も併せて報告された。二人目の話題提供者である前田幸男氏からは、諸外国および日本における政策動向と独立行政法人日本学術振興会が推進する「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」の概要に関する紹介があったのち、これらの事業を通して浮き彫りになりつつある人材育成の課題などに関して問題提起があった。最後に、石井加代子氏より、前述の事業の拠点機関の一つである慶應義塾大学経済学部附属経済研究所パネルデータ設計・解析センターが実施するパネルデータの公開と共有における現状と課題とが紹介された。

後半では、フロアからの質問に答える形で、操作的定義が異なる調査データを利用する際の留意点、研究目的の調査から得られるデータとは異なる各種の業務や商用サービスから派生するデータなどの利用にまつわる問題、メタデータの重要性、個人情報保護への配慮、データのライフサイクルにおいて図書館員（データライブラリアン）が関与すべき部分、小規模なデータの散逸の現状と、公開・共有による引用の増加といった研究者にとってのメリットなどについて、意見交換が活発に行われた。